キリスト教神学
第7章　ポストモダンと神学

一宮基督教研究所
安黒務

「キリスト教神学」概略

1. 神を研究すること
2. 神を知ること
3. 神はどのような方か
4. 神は何をなされるか
5. 人間
6. 罪
7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

第1部　神を研究すること
概略

1. 神学とは何か
2. 神学と哲学
3. 神学の方法
4. 神学と聖書の批評的研究
5. キリスト教のメッセージの今日化
6. 神学とその言語
7. ポストモダンと神学

第7章　ポストモダンと神学概略

1. ポストモダニズムを定義する
   1. プレモダニズム
   2. モダニズム
   3. モダニズムに対する不満
   4. 急進的ポストモダニズム
2. ポストモダン神学の諸類型
3. ポストモダン時代に神学すること
   1. 急進的ポストモダニズムに対する批判
   2. 建設的なポストモダン神学の諸原理

序

1. 本章の目的
2. 本章の概要
3. 研究課題

第1節　ポストモダニズムを定義する
①プレモダニズム

1. 宇宙は合理的なものである
2. 目的論的
3. 歴史も秩序立ったパターンに
4. 形而上学的概念･認識的概念が関係していた

第1節　ポストモダニズムを定義する
②モダニズム

1. アプローチの一致点と相違点
2. 近代思想－合理性･確実性の強調
3. インマヌエル･カント
4. ベーコンの思想･ニュートンの思想
5. ランドル『近代知性の形成過程』
    1. 本質的にヒューマニズム
    2. 自然主義
    3. 科学的手法
    4. 生物学的進化論
    5. 決定論
    6. 還元主義の傾向
    7. 基礎づけ主義
    8. 形而上学的実在論
    9. 言語の表象的見方
    10. 真理における対応説
6. あらゆる事柄を覆い尽くす説明を探求

第1節　ポストモダニズムを定義する
③モダニズムに対する不満

1. アレン：モダン全体の崩壊の四領域
   1. 「自己充足的な宇宙」の問題
      - 合意事項に重大な疑い
   2. 道徳と社会の基盤を見出すことに失敗
   3. 進歩への楽観主義の喪失
   4. 知識は中立的なもの
2. オーデン：モダニティの四つのモチーフ
   1. 自立的個人主義
   2. 自己陶酔的快楽主義
   3. 自然主義的還元主義
   4. 絶対的ドグマティズム

第1節　ポストモダニズムを定義する
④急進的ポストモダニズム

- 合理性の基本事項のいくつかを拒否しつつ、さらに急進的に

1. 「脱構築」
2. ネオ・プラグマティズム
3. 新しい歴史主義
4. モダニティの極端な拡張

第2節　ポストモダンの諸類型

- グリフィン：便宜的なカテゴリー
  1. 「脱構築あるいは排除的ポストモダン神学」
  2. 「建設的あるいは改訂的ポストモダン神学」
  3. 「解放論的ポストモダン神学」
  4. 「保守的あるいは再構成的ポストモダン神学」
- 相違点ー翻訳者と改変者の間の相違に対応

第3節　ポストモダン時代に神学すること
序

1. ポストモダン時代への移行の事実
2. 真剣にポスチモダンの見方に備える
3. ポストモダンの精神構造

第3節　ポストモダン時代に神学すること
①急進的ポストモダニズムに対する批判

1. 極端なポストモダニズムの信念には抵抗
2. 中心的問題のひとつ――一貫性をもって主張を維持することの難しさ
3. 脱構築を唱導しつつ、脱構築主義者であることは難しい
4. デリダのサールへのレスポンス
5. 脱構築が採用しない論理を前提に
6. 合理主義が制限したので、ポストモダンは合理主義を拒否

第3節　ポストモダン時代に神学すること
②建設的なポストモダン神学の諸原理

1. 五人の目の見えない人たちと象
2. 相対主義、多元主義、主観主義
3. 外見上の主観性を扱う一つの試み
4. ある程度の謙遜が神学を保持する
5. 福音の文化脈化にかかわる
6. 共同体の訴え－客観性を保証しない
7. 神学が未信者に提示される
8. 啓示の様式－聴衆が知覚できる特徴を考える